― 大学IRコンソーシアムが選ばれる3つの理由 ―

1　文部科学省「全国学生調査」を完全にカバー ― 1回の調査実施で対応完了

大学IRコンソーシアムの学生調査（全67問）は、文部科学省「全国学生調査」（30問*）を完全にカバー。
1年に1回だけの調査実施で、文部科学省への提出データもそのまま出力が可能です。

※属性に関する設問除く

2　55大学・年間約7万人 ― ここでしかできないベンチマーキング

国内最大級のIRコミュニティだからこそ可能な、大学間・専門分野別・学年別・規模別の相対比較。
単独の調査では決して得られない自学の「客観的な立ち位置」がわかります。

3　独自IRシステム“IRiS”のサービス拡充 ― AI分析・予測機能（計画中）による大学マネジメントの高度化

大学IRコンソーシアムのIRシステム“IRiS”は、これまで会員大学の現場担当者の切実なニーズを取り入れて進化してきました。
現在も、高度な統計手法やAIを活用した分析・予測機能を実装する準備を始めています。これからも成長し続ける“IRiS”が、
教学改善にとどまらず、中期計画・認証評価・募集広報といった大学経営の根幹に関わる意思決定を支援します。

まずは「無料お試し体験」からスタート！

費用負担は一切なし。PC とネットワークのみですぐに体験可能です。

完全無料（お試し体験）
「お試し体験」期間中の費用負担は一切ありません。

柔軟な期間設定
数日から最長1ヶ月程度まで
各大学が検討に要するスケジュールに合わせて調整可能です。

手厚い導入サポート
事前のオンライン説明会と事後の振り返りミーティングで
操作から活用方法までを徹底的にサポートします。

学内決裁の資料としての活用
本格導入に向けた学内決裁用の資料作成での
システム画面等の利用は、制限なく全て可能です。

機能項目	お試し体験	正会員
閲覧機能（全機能）／過去5年分のデータ閲覧	✓	✓
データダウンロード（DL）機能／専門分野相互比較	✓	✓
大学間相互比較	―	✓
学生調査の実施／データ登録	―	✓

大学IRコンソーシアム正会員 5つの体験価値

- IRシステムの使用
- 共通調査票の利用
- 大学間相互比較
- 講演会・セミナー
- 会員校との情報交換

※ 大学間相互比較は、「お互いに閲覧可能」という利用条件を満たさないため、お試し体験では利用できません。
※ それ以外の過去データを使った画面操作や専門分野内での分析等は、お試し体験期間に全ての操作を体感できます。
※ 1大学につき1申込のみでお願いいたします。なお、研究目的での利用は不可とさせていただきます。

大学マネジメントの高度化　意思決定支援のための客観的なエビデンスとして活用可能です！

中期計画策定や認証評価への対応
55大学の比較データを、自学のKPI設定や自己点検・評価の客観的根拠に

募集広報や休退学理由を探索する満足度分析
客観的な強みの把握と発信によるブランディング、休退学防止のための不満や課題の要因分析に

優先順位を決めた重点施策の策定と評価
経営資源配分の優先順位づけや、学生サービス等諸施策実施後の事後評価に

5つの体験価値
オールイン
年会費30万円

新規会員募集
お試し無料体験募集

https://irnw.jp/

一般社団法人
大学IRコンソーシアム
The Institutional Research Consortium of Japanese Universities

一般社団法人大学IRコンソーシアム事務局
TEL：06-4397-4188　e-mail：irconso@irnw.jp
〒534-0024 大阪市都島区東野田町5丁目2番23号 京橋セントラルビル

一般社団法人 大学IRコンソーシアム
The Institutional Research Consortium of Japanese Universities

会員募集のご案内

ONE SURVEY, DUAL IMPACT

1つの学生調査で、2つの分析価値を。



調査・分析から教学マネジメント、そして戦略的IRへ。
１つの学生調査で、文部科学省「全国学生調査」への対応と、
教育の質保証に向けた高度なエビデンス収集までを
実現します。

大学IRコンソーシアム IRシステム“IRiS”のイメージ

会員大学
学生 約7万人/年の調査データ

クラウド型 IR分析システム
IRiS
大学IRコンソーシアム学生調査
（全学年共通・全67問）

全国学生調査への対応
文部科学省へのデータ提出
全国学生調査（30問*）を完全にカバー
※属性に関する設問除く

教学マネジメントへの寄与
ベンチマーク分析
会員大学間の比較から教学改善に直結

戦略的IR
大学マネジメントの高度化を支援
中期計画・認証評価・学生募集等への活用

大学IRコンソーシアム設立の目的

学生調査分析を軸とするIR機能の開発を基盤として、
IRを通じた会員間での相互評価の結果を学士課程教育の質的向上に結びつける
質保証システムの創出と全国規模のIRコミュニティの育成を目的としています。

55 大学
会員大学数
（国立6・公立9・私立40）

7 万人/年
学生調査の回答規模
国内最大級のIRコミュニティ

67 問
IRコンソ学生調査
全国学生調査30問*を全てカバー

※2026年7月現在　※属性に関する設問除く

教学IRから“大学マネジメントに資するIR”へ。

学生調査の実施・可視化・分析を、文部科学省への説明責任対応や教学改善だけで終わらせません。
全会員大学のベンチマークデータ × 会員大学間比較 × 経年データ × AI分析が、理事会や大学執行部の意思決定を支えるエビデンスとなります。

戦略的計画の根拠
客観データで、中期計画に根拠を、
認証評価での説明に説得力をもたらす

経営基盤の安定
学生データとマージし、達成感・満足度等の
募集広報上の強みを数値化する

経営資源の最適化
限られた経営資源を
効果を生む領域へ重点的に配分する

一般社団法人 大学IRコンソーシアム
https://irnw.jp/

One Survey, Dual Impact：1つの学生調査が生み出す、2つの分析価値、その先の戦略的IRへ

分析価値 1

文部科学省「全国学生調査」を完全にカバー

大学IRコンソーシアムの学生調査を実施すれば調査結果を「全国学生調査」にそのまま利用可能

文部科学省「全国学生調査」のフォーマットを全て踏まえ、必要な独自設問を加えた学生調査です。

大学IRコンソーシアムの学生調査（全67問）

全国学生調査の設問（30問※）	大学IRコンソ＋ 独自設問（37問）
※属性に関する設問除く ・授業での経験 ・知識・能力の変化 ・1週間の時間の使い方 ・学びの振り返り ・インターンシップ、留学の経験	・大学教育、環境の満足度 ・大学設備、学修支援の満足度 ・学生生活の充実度 ・コミュニケーション、プレゼン、リーダーシップ等のコンピテンシーに関する能力の変化
文部科学省のフォーマットに統一	文部科学省「学生調査」にはない満足度、達成感等を加えて測定

■文部科学省へのシームレスな「全国学生調査」データ提出フロー

1. **システムから抽出** ｜ "IRiS"から全国学生調査フォーマットに合わせた全67問一式をダウンロード
2. **データの加工** ｜ 学部・学科などの必要情報を追加・加工
3. **データの提出** ｜ 「全国学生調査」30問※のデータを抽出し、指定フォーマットで文科省へ提出

※属性に関する設問除く

- ✓ **セキュアな処理**：学籍番号は全て暗号化。提出前に学籍番号列を完全削除し、匿名化・規定フォーマット化して送信
- ✓ **設問はムダなく最適化**：「全国学生調査」にはない重要な満足度に関する設問を加え最適化

「全国学生調査」結果の文科省提出のための作業負担を軽減!!
セキュアなシステムから、学内での作業負担をほとんど増やさずに、データ抽出が可能です。

分析価値 2

大学IRコンソーシアムしかできない 55会員大学データによるベンチマーク分析

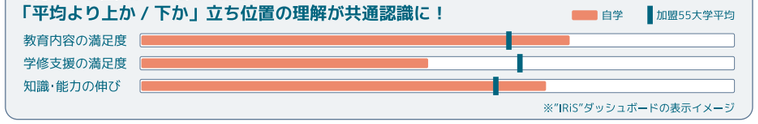
自学単独の調査では、自学のことしかわかりません。

55大学・年間7万人の回答が集まる国内最大級のIRコミュニティだからこそ、「他大学と比べた自学の立ち位置」を客観的に把握できます。

■独自IRシステム"IRiS"のダッシュボードでポジショニングの把握

大学間比較	専門分野別比較	学年別比較	規模別比較
会員大学同士のベンチマーキングを通じて自学の客観的な立ち位置を明確化	専門分野ごとの相互比較を通じて自学の教育の特色を可視化	全学年共通調査だからこそ、学年進行に伴う成長や変化が一目瞭然	同規模大学との比較を通じて自学に合った実現可能な改善目標の理解

自学の立ち位置が、一目でわかる。
「平均より上か / 下か」立ち位置の理解が共通認識に！



※"IRiS"ダッシュボードの表示イメージ

■多様な分析手法を活用

- ✓ **経年比較・トレンド分析**：過去5年分のデータ閲覧で経年変化の分析を途切れさせません。
- ✓ **クロス集計・多角的分析**：学生データとのマージによって、多角的な分析が可能です。
- ✓ **年度内（3月）に調査結果が閲覧可能**：学生調査結果をスピーディにシステム搭載し次年度の教学改善サイクルにつなぎます。文部科学省のサイトより遙かに速く、データ鮮度を重視した結果の閲覧が可能です。
- ✓ **相互評価というIR文化**：学生調査の会員間の相互評価が、競合大学との比較を可能とし、学士課程教育の質的向上に結びつけることができます。

2012年から蓄積された全国規模の学生調査データ基盤の活用!!
単年・単独では得られない「比較と経年」を軸とした分析価値を得られます!

今後の分析価値

独自IRシステム"IRiS"サービスの拡充

■「全国学生調査」と"IRiS"

- 2024年度：**"IRiS"大規模改修**
- 2025年度：**文部科学省「全国学生調査」本格実施に合わせた新設問調査のスタート**
- 2026年度以降の予定：NEW **「IRiSの新たなサービス」として分析・予測機能の拡充を計画中**
  統計手法による分析の高度化に加え、AIによる分析・予測機能の実装を計画中。学生調査データを、より深化したデータ分析と将来予測を引き出す次世代のIR分析基盤へと拡充を予定しています。

■「無料お試し体験」によりコスト・リスクゼロで導入の検討が可能

- ✓ **無料お試し体験**：完全無料・数日～最長1ヶ月程度。PCとネットワークのみで即座に開始
- ✓ **手厚いサポート**：事前のZoom説明会＋期間終了後の事後ミーティングで徹底支援
- ✓ **学内決裁での活用**：本格導入に向けた学内決裁用の資料作成にデータ活用が可能

■大学マネジメント関係者の「4つの問い」と「4つの回答」

Q. 強みは何か
55大学の比較による学修成果や満足度等の把握から、自学の強み弱みを特定。効果的な発信によるブランディングの強化。

Q. どこを改善すべきか
平均を下回る領域を数値で把握し、経営資源を改善点へ重点配分。

Q. 施策は機能したか
経年比較によって施策の効果を検証し、次の一手へと意思決定を支援

Q. 誰に説明するのか
理事会・認証評価機関・受験生・保護者それぞれに伝わる根拠あるストーリー

教育の質の保証、IRの実質化、何からはじめるべきか?!
まずは裏面の「無料お試し体験」から。貴学の検討スケジュールに合わせて柔軟にご案内します。

教学IRから"大学マネジメントを支援する戦略的IR"へ。

学生調査を、文部科学省「全国学生調査」や認証評価対応だけでは終わらせません。
55大学ベンチマーク × 経年データ × 今後のAIによる分析・予測機能の実装が、大学執行部や現場の教職員のみなさんの意思決定を支援する「共通のエビデンス」になります。

STEP 1 ｜ 学生調査の実施

01 **Q. 自学の立ち位置をどう示すか**
中期計画・認証評価を、客観データで裏づける

自己点検・評価や中期計画のKPI 設定に、**全国55 大学との比較分析**という客観的な根拠を。「主観的な自己評価」から「相対的な位置づけに基づく計画」へステップアップします。

STEP 2 ｜ 独自 IR システム "IRiS" で分析・比較

02 **Q. 学生数をどう守るのか**
学生の定着を、KPI として管理する

学修行動・満足度・学修成果等での弱みを早期に発見し、施策につなげる。**休退学の抑止（リテンションの向上）**にとって大変重要な、多角的な学生満足度や充実感を測定します。

STEP 3 ｜ 教学改善・質保証

03 **Q. 何が課題で、何が強みなのか**
データという根拠に基づく教学改善をサイクルさせる

内部質保証を実質化する上では、3 ポリシーに即した **IR 指標によるアセスメント**が欠かせません。また、教育情報の公表・学生募集や高大連携において、**データで語れる自学の強み**が受験生・高校・保護者等ステークホルダーとの関係性を強化します。

GOAL ｜ 大学マネジメント上の意思決定支援

04 **Q. 経営資源の配分にどう優先順位をつけるのか**
限られた資源を、効果が生まれる領域へ配分する

どの分野・どの領域に人と予算を投じるべきか。**効果検証に有用な経年データ**が、施策の優先順位づけと事後評価に寄与します。

1つの学生調査が、教学の質保証を超えて、大学マネジメントのデータ基盤となる。

文部科学省への説明責任対応・教学改善の高度化・根拠ある意思決定の支援の3つが、1つのデータ基盤でつながります。
個々に走っていた「評価」「改善」「マネジメント」を、共通のデータ基盤で議論できます。

1 つの調査で、文部科学省「全国学生調査」対応と戦略的 IR、そして大学マネジメントの意志決定支援を。

一般社団法人大学IRコンソーシアムは、新規会員大学を募集しています！

55 大学	7 万人/年	67 問	0 円お試し
会員大学数（2026年7月現在）	調査規模・国内最大級	「全国学生調査」30問※を完全にカバー ※属性に関する設問除く	無料お試し体験が可能!!